

子どもは来年が同じであることを

丸山保育園 保護者

信じて疑わない・・・

「年長サンニナッタラ、自分ノ誕生日ニハアレシテコレシテ、先生ニマタ誕生日カード作ッテモラッテ・・・」って年中の娘は言っています。来年が同様であることを信じて疑わない。みんなそうですよね。それが、来年の誕生日には今知っている先生が1人もいない。年長組さんになったら～しよう、という思いも、保育内容が変わったらできないかも。そんな状態、やはりどうかしてますよね。

来年子どもをあずけようと

新年度入園希望の保護者 思ってた園が・・・

今回は、あまりの唐突さに驚いています。2つの園が委託されることを保育士さんのピラ配りで知り、「何かの間違いだろう」。それから来年4月から子どもをあずけたいと思っていた宮の台保育園がどうやら「大当たり」。まさか保育士さんの異動はないだろう、と思っていたのが「当然全職員総入れ替え」。以前上の子を転園させた事があり、その時子どもの動揺を見て、子どもにとっての環境の変化は、どれだけ影響が大きいかが、身をもって体験しています。

時間をかけてこそ・・・

野方さくら保育園 保護者

「運営委託」と聞いて以来、他人事では済まず事のできない思いで見守ってきました。説明会では「野方さくらでの保育に大きな問題はなく、マニュアルがあるので引継ぎも2ヶ月で可能」とご説明があったそうですが、「それは、園名発表から2年に及ぶ話し合いの場を重ねてきたからこそその結果であり、保護者がその中で新しい園を創っていこうと思えるようになり、新園の先生方との間に信頼関係が生まれてきているからだ」と感じています。

一方で、保育園の主人公である子どもたちにとっては、大人がはかり切れない負担があったのも事実です。新園の先生方と親が、力を合わせて、「ココハ保育園ジャナイ」と泣く子どももいる4月を、懸命に受けとめてきたのです。

「天使の笑顔」を育ててくれた保育園

野方保育園 保護者

自閉症の子どもをもつ親です。温かい区立保育園で、息子も母も助けられました。扱いにくい自閉症の息子のために、ベテランの先生を担任につけていただいたのをはじめ、色々な配慮をしていただきました。父親が出勤のため、土曜も預かってもらいました。そのときは非常勤の先生に随分可愛がってもらいました。「また土曜日来てね」って言ってくれたのを覚えています。こうしたたくさんの愛情のおかげで、息子はしゃべる事はできなくても、笑顔を絶やすことはありませんでした。小学校で今「天使のような笑顔だね」と言われています。

運営委託が、こうした子にとっての保育の質を守ってくれるのか、心配です。

* 寄せられた声のほんの一部です。また、寄せられた声を、かなり省略してお伝えしています。

中野区保育園父母連絡会 連絡先：03(5373)2167 会長 松永有伯